

2013年3月27日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀 伊 國 献 三 殿

施設名 岡山済生会総合病院
代表者 院長 大原 利憲



2012年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 2012年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業
2. 期 間 2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月31日
3. 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記 I～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)
※決算期の関係で2013年3月18日(月)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日 2013年 月 日)
 - V 研修修了者報告書

以上

報 告 書

I 事業の目的・方法

がん診療に関する幅広い知識を持ち、緩和ケア病棟や緩和ケアチームおよび地域緩和ケアで活躍できる医師は全国的に不足している。2007年にがん対策基本法が施行され、がんと診断された時から苦痛を緩和することが、全ての医療者に求められることとなり、緩和ケアの重要性が再認識された。緩和ケアは、単純に鎮痛剤を投与すれば良いと言うものではなく、がん患者の抱える全人的苦痛の緩和が目的であり、家族をも含めてケアを提供するため、緩和ケア医には幅広いがん診療の知識と人間性が要求される。緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、往診専門クリニック、などでの研修を通して、内科系の幅広い知識を基礎として緩和ケアが提供できる医師の養成を目的としている。

II 内容・実施経過

A 研修内容

下記研修の2年目以降を準用するが、希望に応じて適宜変更する

＜後期研修：緩和医療専門医コース＞

期間：5年

研修プログラムの目指すもの：

がん診療に関する幅広い知識を持ち、緩和ケア病棟や緩和ケアチームおよび地域緩和ケアで活躍できる医師となることを目標とする。

NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会作成「緩和ケア病棟における医師研修指導指針2011年版」およびNPO法人日本緩和医療学会「緩和医療専門医をめざす医師のための研修カリキュラム」を基本として研修を行い、専門医として必要な資質、態度、能力を獲得する。特に緩和医療は多職種チームで行われることが多いため、チームのマネジメントやコンサルテーション対応などの幅広い能力が求められる。

研修する医師に期待すること

緩和ケアは、がん患者の抱える全人的苦痛の緩和が目的であり、家族をも含めてケアを提供するため、幅広いがん診療の知識と人間性が要求される。

研修プログラム

1年目は日本内科学会認定内科医の取得を目標とし、内科での研修を行う、その後、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、腫瘍関連科、往診専門クリニックでの研修を行い、緩和医療専門医取得を目指す。

必修分野：緩和ケア科、内科

選択分野：内科（呼吸器、消化器）、外科（乳腺、呼吸器、消化器）、麻酔科、放射線科、婦人科、泌尿器科、往診専門クリニックなど

基本診療科の専門医（認定医）を取得済み（取得見込み）の医師の場合は、1年目の内科ローテートを省略することができる。

修得できる専門医資格

日本緩和医療学会 緩和医療専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本内科学会 認定内科医

指導体制：指導医と指導資格

木村秀幸（岡山大学 昭和 47年卒）

日本緩和医療学会 暫定指導医

日本臨床腫瘍学会 暫定指導医

日本外科学会 認定医・専門医・指導医

石原辰彦（自治医科大学 昭和 63年卒）

日本緩和医療学会 暫定指導医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本内科学会 認定内科医

B 実施経過

研修期間

2012年4月1日～2013年3月31日

緩和ケア病棟入院患者を主担当医として受持ち、入院から退院まで、さらに退院後の在宅療養中のサポートを担当した。

月曜日～金曜日8時30分～9時 朝の申し送り

月曜日～金曜日9時～9時30分 ミニカンファレンス

月曜日～木曜日13時30分～14時 ミニカンファレンス、デスケースカンファ

水曜日16時～17時 緩和ケアチームミーティング

金曜日13時30分～14時30分 合同カンファレンス（多職種）

金曜日16時30分～17時 精神科医とのカンファレンス

院外研修

2012年10月10日～10月19日 ももたろう往診クリニック（岡山市）

2013年1月28日～2月1日 筑波メディカルセンター病院緩和ケア科（つくば市）

2013年2月18日～2月22日 六甲病院緩和ケア科（神戸市）

学会参加

2012年6月22日～23日 第17回日本緩和医療学会学術大会（神戸市）

2012年11月3日～4日 第36回日本死の臨床研究会年次大会（京都市）

III 成果

2012年4月から2013年3月までの1年間に緩和ケア病棟に入院した患者200名以上の担当医として、がん疼痛をはじめとする苦痛の緩和、在宅療養への調整を病棟スタッフとともに行った。内科医としての素養は十分にあり、進行がん患者の気持ちに寄り添い、多職種との連携もうまく、緩和医療専門医として必要な、知識・技能・態度は習得されている。

自らの学習も深め、下記のごとく、認定医の取得、学会発表、院内研修会の講師も務め、今後は後進の教育にさらに積極的に取り組まれることを期待する。

- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 合格
- 第17回日本緩和医療学会学術大会 ポスター発表
- 院内研修である「がん疼痛セミナー」の講師2回